

1 地域ビジョン策定の趣旨

富屋地区地域ビジョン改訂方針

- 1 このビジョンは、富屋地区が明るく元気で、住みやすく、魅力あふれるまちにするため、将来（10年後）の目標や重点課題、具体的な計画を定めるものとして、平成27年2月に策定されましたが、目標年次としていた10年を経過したことから、これまでの取組を振り返り、これから10年先を見据えたものとするよう改訂します。
- 2 「富屋地区まちづくり5つの目標」は、富屋地区において重要な柱であることから、引き続きこの目標を基本としながら改訂します。
- 3 富屋地区まちづくり連絡協議会を構成する各自治会、各目的団体、各公的団体の取組、意見、要望を改訂後のビジョンに反映させるため、それぞれから、これまでの取組などの報告を受けるとともに、随時ヒアリングを行います。
- 4 これまでの活動状況や今後の展望、また、富屋地区を取り巻く環境の変化を十分考慮し、見直すこととします。

富屋地区まちづくり 5つの目標

- 1 住民一人一人が主役になって、明るく活力のあるまちを築こう
- 2 あいさつをかわし、声かけあって、思いやりのあるまちにしよう
- 3 美しい自然を守り、先人の残した文化遺産を次世代に伝えよう
- 4 高齢者の知恵を活かし、子供の夢と自立心を育てよう
- 5 災害に強い、事故のない、安心・安全なまちをつくろう

（平成17年5月21日制定）

2 富屋地区の変遷と展望

(1) 富屋地区の変遷

私たちの郷土富屋地区は、明治22年に徳次郎6カ郷と近隣5か村が合併して富屋村が生まれ、その後、昭和29年に宇都宮市に編入合併した。

昭和40年代の高度経済成長期には、自動車の普及とともにハイウエイの時代を迎え、当地区内に東北自動車道が走り、宇都宮インターチェンジが設けられた。また、昭和51年には日光宇都宮道路が開通し、併せて徳次郎インターチェンジが開設された。その後、平成15年には宇都宮北道路が開通するなど、日光と宇都宮、首都圏と東北地方を結ぶ交通の要衝となってきた。地区内には、日光街道をバスが宇都宮駅まで定時運行しているほか、平成24年に地域内交通「わくわくとみや号」の運行を開始した。

産業については、農業が基幹産業であり、かつては水稻を中心にニンジン、ゴボウ、ネギが特産物であったが、現在はイチゴやトマトなどの園芸作物への転換がみられる。また、水田の大規模・区画化を進めるほ場整備については、昭和60年以降、富屋各地で進められてきた。商工業については、かつての宿場町を引き継いだ商業が盛んな時代もあったが、現在は衰退している。地区内に大きな工場はないが、中小規模の製造業、食品産業が立地しており、近年ではドラックストアが出店している。なお、観光業としては宇都宮動物園、ただおみ温泉が営業し、観光農園も見られる。

当地区は都市計画上、市街化調整区域のため、人口の自然増は期待できないが、昭和42年に徳次郎町内に540戸の市営山王住宅が建設され、平成6年、平成19年に建て替えなどの整備がされた。

(2) 富屋地区の展望

富屋地区には豊かな自然と美しい田園風景、農村景観があり、また、多くの史跡や歴史的建造物、文化財が現存している。今後はこれらの多彩な地域資源と観光を結びつけた、新たな産業の創出が期待される。

また、当地区には福祉・医療施設が充実し、道路網が整備されている。このため、人々が心安らぎ、健康を取り戻すことができる保健、福祉の拠点地域として、発展するものと思われる。更に農業については、後継者が収益性の高いイチゴやトマト、果物、花きなどに積極的に取り組んでおり、近隣のろまんちっく村やあぜみち、さんとななどの農産物直売所に向け、リアルタイムで農産物を出荷するなど、意欲的な取組も見られる。

富屋地区のまちづくりについては、自立自助、住民主役を基本とした過去20年の活動実績の上に立ち、今後とも住民の創意工夫を活かした、活気あふれる活動が期待される。

3

富屋地区まちづくり連絡協議会の発足と事業成果

(1)まちづくり連絡協議会発足の背景

- ① 宇都宮市の住民行政の政策転換、地域づくりは地域住民が主体的に行う。
- ② 出張所と公民館が統合。富屋地区市民センターの開所（平成9年4月）
- ③ 富屋地区公民館の廃止（平成14年3月）。生涯学習センターの開設
- ④ 富屋地区コミュニティ協議会の発展的解消（平成15年6月）

(2)まちづくり連絡協議会の目的と事業内容

- ① 平成15年6月19日、富屋地区まちづくり連絡協議会設立。
- ② 本協議会の目的は、富屋地区内の各種団体及び関係機関と連絡調整を図り、実践活動（地域の課題解決や活性化活動）を通して、まちづくりに寄与すること。
- ③ 本協議会の組織は、地縁団体（自治会）、目的団体、公的機関、学識経験者等で構成。
- ④ 目的達成のため、次の事業を掲げている。
 - ア まちづくりの調査、研究
 - イ 団体相互及び関係機関との情報交換、連絡調整
 - ウ 地域活性化のための啓発及び実践活動
 - エ 行政施策への提言、事業実施上の調整、要請運動

(3)これまでの事業成果

【新規事業や主要事業（開始年度に掲載）など】

| 年 度 | 事 業 内 容 |
|----------|---|
| 平成 15 年度 | <ul style="list-style-type: none">① 協議会の設立。地区内の各種団体、関係機関の大同団結と連携強化② 時代の要請に応じた組織の設立<ul style="list-style-type: none">○富屋地区防災会○富屋地区婦人防火クラブ③ 住民主体の事業の展開<ul style="list-style-type: none">○広報とみやの発行○シンボルマーク制定○富屋再発見歩け歩け大会○とみやホームページ検討 |
| 平成 16 年度 | <ul style="list-style-type: none">① 富屋の風景と遺産 50 選の制定② 地域伝統文化の支援(徳次郎智賀都神社夏祭り支援)③ 徳次郎夏祭り写真コンテストの開催④ 二宮堰公園の清掃活動開始 |

| | |
|----------|---|
| 平成 17 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① 『富屋地区まちづくり 5 つの目標』の制定 ② 富屋のシンボル(花・木・鳥・虫)の制定 ③ 富屋地区まちづくり懇談会の開催 ④ 環境部会代表者会議の開催 ⑤ 市と協働により廃棄物不法投棄監視パトロールの開始 |
| 平成 18 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① 宇都宮市長を囲む「まちづくり懇談会」の開催 ② 地域イベント(とみやふるさとまつり)の内容充実 ③ そば打ち交流会の開催 ④ 富屋の風景と遺産 50 選ガイドマップの作成 |
| 平成 19 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① 専門部会の強化 ② 高齢者と児童のふれあい交流会の開催 ③ 富屋地域学講座の開催 ④ 地区防災マップの作成 ⑤ 宇都宮市最優秀市民憲章の表彰受賞 |
| 平成 20 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① 専門部会活動内容の充実 ② とみやそばまつりの開催 ③ 広報とみやの充実(一部カラー化) ④ とみやふるさとまつり組織の一本化 |
| 平成 21 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① 専門部会活動の拡充 ② とみやそばまつりの充実 ③ 広報とみや合本作成(1 号から 50 号) ④ 災害時における要援護者「富屋地区支援班」の設置 |
| 平成 22 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① 宇都宮市長を囲む「まちづくり懇談会」の開催 ② 交通部会の設置(地域内交通の導入に係る検討) ③ 富屋地区「屋号調査」の実施・報告 ④ ホタルマップの作成 |
| 平成 23 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① まちづくり懇談会の開催(第 5 回) ② 地域内交通の導入に係る検討(再アンケートの実施等) ③ とみやそばまつりの充実 |
| 平成 24 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① まちづくり連絡協議会 10 周年記念事業の開催 ② まちづくり連絡協議会 10 周年記念誌の発行 ③ 地域内交通試験運行の開始 |
| 平成 25 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ① 富屋地区地域ビジョン策定委員会の設置 ② 地域内交通本格運行の開始 |

| | |
|---|--|
| 平成 26 年度 | ① 富屋地区地域ビジョンの策定 |
| 平成 27 年度 | ① 各団体事業計画の作成 |
| 平成 28 年度 | ① ふるさとまつり・そばまつりの推進 |
| 平成 29 年度 | ① ふるさとまつり・そばまつりの推進 ② 富屋楽コンサートの実施 |
| 平成 30 年度 | ① ふるさとまつり・そばまつりの推進 |
| 令和元年度 | ① 宇都宮市長を囲む「まちづくり懇談会」の開催 |
| 令和 2 年度 ※コロナウイルス 感染防止に伴い 事業はほぼ中止 | ① 富屋の史跡・文化財案内板設置（12か所） ② 徳次郎名称復活・市民遺産認定記念事業 （智賀都神社例大祭付け祭り・冬渡祭・上横倉獅子舞） ○記念式典・記念講演会 ○上横倉の獅子舞の披露 ○徳次郎お囃子連合会によるお囃子の演奏 ○記念企画展 |
| 令和 3 年度 | ① タイムカプセル開封事業の実施 ② 富屋地域安全安心マップ作製・全戸配布 ③ とみやふるさと散策マップ作製・全戸配布 ④ 富屋の史跡・文化財案内板設置（5か所） ⑤ 広報とみや合本作成（51号～100号） |
| 令和 4 年度 | ① コロナ禍後のとみやふるさとまつり（短縮バージョン）の開催 ② 富屋地区ふれあい協議体（第2層協議体）の発足 |
| 令和 5 年度 ※コロナウイルス 第5類へ移行 | ① コロナ禍後のとみやふるさとまつり（フルバージョン）の開催 ② コロナ禍後のとみやそばまつりの開催 ③ 宇都宮市長を囲む「まちづくり懇談会」の開催 ④ 富屋地区まちづくり連絡協議会ホームページ開設 ⑤ 徳次郎宿案内人の認定 ⑥ 徳次郎宿ツアーの開催 |
| 令和 6 年度 | ① 富屋の史跡文化財案内看板ナレーション事業の実施 ② デジタルサイネージを活用した情報発信の開始 ③ 二宮堰公園整備 ④ 富屋の史跡・文化財案内板設置（2か所） |
| 令和 7 年度 | ① SNS（X、Instagram、YouTube）の開設 ② 富屋地区地域ビジョンの改訂 ③ 富屋地区まちづくりのあゆみ（第2版）の作成 ④ とみや日本一の夫婦けやきプロジェクトの展開 |

4

富屋地区の魅力

(1) 地域住民が意識している富屋地区の魅力

- ① 自然が豊かである。四季を感じる。
- ② 静かである。ほどよく田舎で住みやすい。
- ③ 災害が少ない。
- ④ 素朴で心が優しい。人情味がある。
- ⑤ 人間関係がよい。仲がよい。連帯感・協力心がある。
- ⑥ あいさつがよくできている。特に子供たち。
- ⑦ 国道の交差点、インターチェンジがあり、道路交通の要衝になっている。
- ⑧ 医療機関が多い。
- ⑨ 各種行事、伝統行事が多い。
- ⑩ 史跡、文化財が多い。彫刻屋台がすばらしい。

(2) 外部から見た富屋地区の魅力

- ① 自然が豊かで野生動物、野鳥、昆虫、魚類など、多くの生き物が生息している。
- ② 山林、農耕地、河川、水路が連なり、四季を通じて美しい景観が形成されている。
- ③ 日光街道、徳次郎宿跡、智賀都神社など、全国に誇る名所、史跡が多数現存している。
- ④ 江戸期建造の彫刻屋台など、伝統ある民俗文化財が残り祭りが行われている。
- ⑤ 全国的に著名な宇都宮動物園があり、貴重な動物が飼育されている。
- ⑥ 2本の国道、2本の高速自動車道、2つのインターチェンジがあり、道路交通の要衝になっている。
- ⑦ 地区内に公的機関、学校、病院、福祉施設など多くの施設が立地し、宇都宮市北部における拠点地区となっている。

(3) 富屋地区が誇る史跡と文化財

- ① 古社智賀都神社と名木のケヤキ
- ② 名僧妙哲禅師と名刹伝法寺及び釈迦如来像
- ③ 開宿400年を迎えた宿場町
- ④ 農聖二宮尊徳の足跡
- ⑤ 名工の逸品德次郎六ヶ郷の彫刻屋台
- ⑥ 国登録文化財の宇都宮水道今市水系第六接合井
- ⑦ 徳次郎正宗を生んだ下野刀工発祥の地
- ⑧ 全国桜の名所百選に選ばれた日光街道桜並木
- ⑨ 豊かな自然、宇都宮アルプス（富屋篠井連峰）
- ⑩ 高級石材として珍重された徳次郎石と西根石造建物群、採石場
- ⑪ 郷土の人物、小堀貞吉、入江熊三郎、入江喜作
- ⑫ 継承される伝統文化（智賀都神社付け祭り・冬渡祭、上横倉の獅子舞）

5

富屋地区の現状と課題

(1) 社会情勢（国・市）

① 人口減少・少子超高齢化の深刻化

現在、少子高齢化が急速に進行した結果、2053年には日本の総人口は1億人を下回ることが予測されている。このような中、出生数においては、全国・市ともに2020年に過去最少となるとともに、2025年の国内の65歳以上の人口は約3割と、3人に1人が高齢者という状況が近づいている。

② デジタル化の急速な進展

近年、デジタル技術が進展するとともに、社会への浸透も進んできており、国においても、デジタル社会の実現を進めている。一方で、情報セキュリティや個人情報保護に対する課題、デジタル・AI技術の活用格差が生じている。

③ 脱炭素社会構築に向けた要請の高まり

現在、地球規模で環境問題が深刻化する中、国際的に環境・エネルギー問題に対する関心が高まっており、市においても2050年までに二酸化炭素実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言している。

④ 新型コロナウイルス感染症等による人々の価値観の変容

新型コロナウイルス感染症の流行などにより、原油価格・物価の高騰など、国を取り巻く情勢は大きく変化を続け、社会経済に深刻な影響を与えた。一方で、テレワークやWebミーティングなど場所にとらわれない新しい働き方が普及し、社会のあり方や人々の価値観に急速な変化が生じている。

(2) 地区の状況（富屋）

① 人口

当地区の人口は、平成4年から平成24年の20年間で約400人減と徐々に減少してきたが、その後12年間（令和6年度末3,252人）で、約1,000人減と大幅に減少している。特に、25歳～44歳で、約500人減、中学生以下も約300人の減と、少子化や子育て世帯・若年層の地区外流出が考えられる。

また、65歳以上の人口が全人口に占める割合は、過去10年間で28%から42%に増加しており、当地区においても高齢化の進行が顕著である。

② 子育て・教育

地区内には、富屋小学校、晃陽中学校、富屋特別支援学校のほか、山王認定こども園、徳次郎保育園がある。

また、放課後の子育て支援として、富屋小学校敷地内に、放課後子ども教室や子どもの家（けやきクラブ）が設置されている。

地区内の小・中学校の生徒数は減少しており、富屋小では学年1クラス、全校数が100名程度となっている。

③ 福祉・健康・医療

富屋地区市民センターと富屋・篠井地域包括支援センターには、保健と福祉の相談窓口「エールU」が設置され、保健と福祉の支援が行われている。また、地区社協、地区民児協、地区福祉協力員や各自治会においても、地区内の相談対応や支援が実施されている。

地区内には社会福祉法人が設置する特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスなどの高齢者施設や障がい者施設が開設されている。

医療機関についても、隣接する地区も含め総合病院やクリニック、歯科・眼科が多数ある。

④ 地域コミュニティ

当地区には13の自治会があり、自治会への平均加入率は約7割と他地区に比較すると高い加入状況となっている。

各自治会において、特色ある行事・活動を実施しながら、地域住民の絆と相互扶助の強化に努めている。

⑤ 安心・安全

地域安全部会をはじめ、防犯協力会、青少年育成会、交通安全協会富屋支部、地区交通安全推進協議会などにおいて、交通安全立哨や環境点検などを実施し地域の安全を確保している。また、地区防災会や消防団富屋分団、女性防火クラブを中心に災害に備えている。

⑥ 自然・環境

当地区には、豊かな自然が多く残されており、地域住民が協力して保全活動を継続している。

また、環境部会を中心に継続的に実施している不法投棄パトロールや各自治会で実施している全市一斉清掃など、環境美化に努めている。

⑦ 歴史・伝統

当地区には、多くの史跡・文化財が残されているとともに、獅子舞やお囃子などの伝統文化も継承されてきている。

⑧ スポーツ振興

地区体育協会を中心に、地区内でのスポーツ振興が進められており、地域住民全体で実施されるファイトとみや、球技大会など歴史ある大会も継続されている。

また、市では北西部地域体育施設の整備が進められており、スポーツ推進委員においても、ジャパンカップサイクルロードレース、宇都宮市民マラソンなど継続的に市に協力している。

(3) 地区の課題

① 人口減少、少子高齢化に伴う影響

地区内の人口減少と高齢者割合の増加により地域を支える力が一層必要となっているが、支える側の現役世代や子供の減少が進んでいることから、居住人口の増加につながる取組のほか、地域を支える意識の醸成や活動などがより重要となって

きている。

② 歴史、文化遺産の継承・維持

地区内には、史跡・文化財・伝統と地区外に誇れる資源が数多く存在しており、地区内の活性化と富屋の地区外へのアピールの重要な資源であることから、今後も継承し続けることが必要となっている。

③ 良好な環境の確保

地区内は山・川・田・畑と自然豊かな環境となっているが、近年不法投棄が多数見うけられ、重大な環境破壊が懸念されることから、継続的に対策が必要となっている。

また、地区内に太陽光発電設備の設置が増加していることから、最新の法令や事業者への対応方法などの情報収集が必要となっている。

④ 安心・安全な生活の確保

近年、災害への備えが取りざたされている中、特に当地区においては、台風などによる田川の氾濫などの水害が懸念される。いざという時の備えのため、市や地区のハザードマップを活用するとともに、避難所（地区市民センター・富屋小学校・晃陽中学校）などでの必要な物品の点検・準備や行動の確認が必要となっている。

⑤ スポーツの振興

当地区には、球技大会やファイトとみやなど地域全体で実施し、住民の健康増進や地域交流に一役かっている。今後もスポーツをとおして絆が強まるよう、ニュースポーツの活用など、引き続き参加しやすい環境づくりが必要となっている。

また、北西部地域体育施設の完成を見据え、有効活用できる体制づくり等の検討が必要となっている。